

学校インターンシップ		実習	准教授 堀 ひろゆき
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコース、スポーツマネジメントコースの教職科目 柔道整復師コースの教職科目 救急救命士コースの教職科目	科目ナンバリング	11540301 12540301 13540301

1. 授業のねらい・概要

学校でなされる教育活動は非常に多様であり、教員や生徒をはじめとして、多くの人が関わることによって成り立っている。本講義は、教員としての職務にとどまらず、学校行事、部活動、学校事務を含む学校での活動全般に実地に関わることを通して、多様な学校での活動を体験することが目的である。教育実習として教員の職務の一部を実践する前に、学校での諸活動に参加し、学校教育現場の実態を学び、教職への理解をより深める。

2. 授業の進め方

学校での教育活動についての基礎的な知識および注意事項の確認を講義形式で行う。実際のインターンシップ終了後には活動内容の報告を行い、受講生同士による討論も取り入れたい。

3. 授業計画

1. 学校インターンシップの目的と意義（ガイダンス） 2. 学校での支援、補助業務での注意点 3. 学校インターンシップでの活動内容報告①（学校の概要） 4. 学校インターンシップでの活動内容報告②（活動内容の報告） 5. 学校インターンシップでの活動内容報告③（活動によって気付いたもの）	6. 学校インターンシップでの活動内容報告④（学校での生徒の実態） 7. 学校インターンシップでの活動内容報告⑤（教員として必要な事項） 8. 総括 ※受講者は毎週2時間程度の活動を15週継続し、経過を報告するものとする。
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

受講者自身がインターンシップを行う学校の概要、実態についての調査を各週30分程度、インターンシップ中には生徒の実態についての気づきや活動への関わりについての振り返りを1時間程度行う。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

活動報告を受け、口頭または書面による講評を行う。

6. 授業における学修の到達目標

学校の様子や教員の仕事について、学校での活動を通して理解する。
教員として必要な実践力の基礎を身に付ける。

7. 成績評価の方法・基準

活動内容の報告を義務づけ、修了することによって単位を認定する。

8. テキスト・参考文献

参考文献は以下のとおり。

尾見康博（2019年）『日本の部活』

青柳健隆・岡部祐介（2019年）『部活動の論点』

9. 受講上の留意事項

受講者は教育実習が決定している教職課程履修者とし、学校での教育活動への基礎的な知識が求められる。

本科目の受講にあたっては年度当初のガイダンス等で十分に受講方法を理解すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。